



ラや免疫機能にも悪影響を与えるので、腸内環境をよい状態に保つことが大切である旨説明がありました。毎日実践した方の 8 割が腰痛・肩こり・眼精疲労に効果があったとされるストレッチも紹介され、参加者全員で行いました。

大会宣言が(一社)日本健康倶楽部沖縄支部の新里智久氏により読み上げられ、参加者全員の総意により採択され、建災防沖縄中部分会安全指導者の富名腰朝成氏を代表に参加者全員で指差唱和を行い、健康職場を誓いました。



## 北部地区

9 月 13 日(水)北部会館 3 階研修室にて令和 5 年度北部地区労働衛生管理推進大会を開催し、44 事業所 83 名の参加がありました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、労働基準協会北部支部の樽岡支部長より主催者を代表して「労働者自身の意識はもちろん大事ですが、一人で続けることはかなり困難なことです。それぞれの職場においても健康への意識を高め、運動の習慣化や飲酒と食生活の改善に取り組むなど、働く人、企業、家族が一丸となり、誰もが安心して働ける、笑顔あふれる健康職場の実現に向け取り組んでいけたらと思います。」旨の挨拶がありました。



上原周名護労働基準監督署長からは「人手不足等を背景として、様々な産業で健康障害や生活習慣病などの基礎疾患が悪化することが懸念される状況にある。依然として、長時間労働の抑制等による健康障害防止対策やメンタルヘルス対策が重要な課題となっている。働く方が心身ともに健康に働ける職場作りに取り組むことは、生産性の向上や組織の活性化につながり、結果的に業績向上につながっていくことが期待される。ぜひ「健康経営」の視点に基づいた、計画的な職場作りの実践を重ねて願います。」

旨来賓挨拶がありました。また、名護労働基準監督署長表彰団体賞が、琉球製罐(株)安全衛生委員会に授与されました。

中野名護監督労働基準監督官からは、労働衛生週間実施要綱、北部地区の健康診断結果状況、ストレスチェックの実施状況及び直近の法改正について説明がありました。



特別セミナーとして、北部保健所の主任保健師松田寿美子外 3 氏から、「1 に運動 2 に食事 しっかり禁煙 最後にクスリ」、「がん検診を受けていたら良かった」、「長寿のバトン次世代へ」、「受動喫煙及び歯科保健関係」の各テーマで検診の大切さや一次予防としての健康的な生活習慣などの説明がありました。

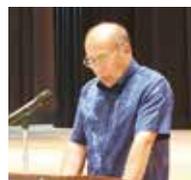
琉球セメント(株)屋部工場の玉城輝大氏が大会宣言を読み上げ、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図ることを宣言し採択されました。指差し唱和では、(株)屋部土建の宮城海人氏を代表に、参加者全員で衛生週間スローガンの指差唱和を行いました。最後に、建災防沖縄北部分会の仲根俊郎分会長より「誰もが安心して働ける職場を尚一層築いて参りましょう。」と閉会挨拶がありました。



## 宮古地区

9 月 7 日(木)、宮古島市中央公民館(未来創造センター)にて、令和 5 年度宮古地区労働衛生大会を開催し、28 事業所 82 名の参加がありました。

参加者全員で黙とう後、平良建災防沖縄県支部宮古分会長の挨拶により開会し、渡真利沖縄県労働基準協会宮古支部長の挨拶では、事業主に労働衛生管理の充実を求めるとともに、労働者にも自主的な心身の管理を呼びかけました。



井上茂樹宮古労働基準監督署長からは、「過重労働等によって労働者の尊い命や健康が損なわれ、深刻な社会問題となっている。宮古地区の令和 4 年の定期健康診断実施状況は、前年より 1.6 ポイント増加の 72.8%となっており、県の平均よりやや高く、また全国平均の 58.3%を大きく上回っており非常に憂慮すべき状況である。労働衛生週間のスローガンの下、経営トップから安全衛生の担当者、労働者まで企業の全員が自主的に労働衛生活動を推進し、職場の労働衛生管理水準が高まるよう取り組みをお願いする。

宮古労働基準監督署としては、労働安全衛生法に基づく健康診断実施後の措置、保険指導、職場のメンタルヘルス対策、健康教育等について、取り組みが低調であったり、不十分な事業場に対しては、個別指導等を実施するとともに、労働者 50 人未満の事業場に対しては「宮古地域産業保健センター」の活用を引き続き促して、必要な措置が着実に実施されるよう進めていく。「うちなー健康経営宣言」への登録もお願いしたい。」旨来賓挨拶がありました。

大久保宮古監督労働基準監督官からは令和 5 年度全国労働衛生週間の実施要綱、健康診断、メンタルヘルス、過重労働